我楽多玩具

岡本綺堂

青空文庫

私は玩具が好です、幾歳になっても稚気を脱しない故かも知れませんが、今でも玩具屋の前を真直には通り切れません、ともかくも立停って一目ずらりと見渡さなければ気が済まない位です。しかしかの清水晴風さんなどのように、秩序的にそれを研究しようなどと思ったことは一度もありません。ただぼんやりと眺めていればいいんです。玩具に向う時はいつもの小児の心です。むずかしい理窟なぞを考えたくありません。随って歴史的の古い玩具や、色々の新案を加えた贅な玩具などは、私としてはさのみ懐しいものではありません。何処の店の隅にも転がっているような一山百文式の我楽多玩具、それが私には甚く嬉しいんです。

私の少年時代の玩具といえば、春は紙鳶、これにも菅糸で揚げる奴凧がありましたが、今は廃れました。それから獅子、それから黄螺。夏は水鉄砲と水出し、取分けて蛙の水出しなどは甚く行われたものでした。秋は独楽、鉄銅の独楽にはなかなか高価いのがあって、その頃でも十五銭二十銭ぐらいのは珍らしくありませんでした。冬は鳶口や纏、これはやはり火事から縁を引いたものでしょう。四季を通じて行われたものは仮面です。今でもないことはありませんが、何処の玩具屋にも色々の面を売っていました。仮面には張子と土と木彫の三種あって、張子は一銭、土製は二銭八厘、木彫は五銭と決っていましたが、木彫はなかなか精巧に出来ていて、槃若の仮面などは凄い位でした。私たちは狐や外道の仮面をかぶって往来をうろうろしていたものです。そのほかには武器に関する玩具が多く、弓、長刀、刀、鉄砲、兜、軍配団扇

のたぐいが勢力を占めていました。私は九歳の時に浅草の仲見世で諏訪法性の兜を買ってもらいましたが、錣の毛は白い麻で作られて、私がそれをかぶると背後に垂れた長い毛は地面に引摺る位で、外へ出ると犬が啣えるので困りました。兜の鉢はすべて張子でした。概して玩具に、鉄葉を用いることなく、すべて張子か土か木ですから、玩具の毀れ易いこと不思議でした。槍や刀も木で作られていますから、少し打合うとすぐに折れます。竹で作ったのは下等品としてあまり好まれませんでした。小さい者の玩具としては、犬張子、木兎、達摩、鳩のたぐい、一々数え切れません、いずれも張子でした。

方々の縁日には玩具店が沢山出ていました。廉いのは択取り百文、高いのは二銭八厘。なぜこの八厘という端銭を附けるのか知りませんが、二銭五厘や三銭というのは決してありませんでした。天保銭がまだ通用していた故かも知れません。うす暗いカンテラの灯の前に立って、その縁日玩具をうろうろと猟っていた少年時代を思い出すと、涙ぐましいほどに懐しく思われます。

私の玩具道楽、しかも我楽多玩具に趣味を有っているのは、少年時代の昔を懐しむ心、それがどうも根本になっているようです。私が玩具屋の前に立った時、先ず眼につくのは旧式の我楽多玩具で、何だか昔の友に出逢ったような心持になります。実用新案の螺旋仕掛などには何の懐しみを有つことが出来ません。随って小児にまでも頭脳が古いと侮られますが、どうもこれは趣味の問題ですから已むを得ません。旧式の張子の仮面などを手に把ってじっと眺めてい

ると、ひどく若々しい心持になる時と、何とはなしに悲しくなる時と、その折々に因って気分の相違はありますけれども、いずれにしても、その玩具を通して少年時代の夢を忍ぶことは、私に取っては嬉しいことです、堪らないほどに懐しいことです。大人でないと笑われても、私はこの年になるまで、我楽多玩具と別れを告げることは出来ません。この頃は少しばかり人形を貰い集めていますけれど、これは道楽の余業で、ほんとうの道楽は一山百文式の我楽多玩具にあること勿論です。しかし時代の変遷で、その我楽多もだんだんに減って来るので困ります。大師の達摩、雑司ヶ谷の薄の木兎、亀戸の浮人形、柴又の括り猿のたぐい、皆な私の見逃されないものです。買って来てどうするという訳のものではありませんが、見るとどうも手が出したくなります。電車の中などでも薄の木兎などを担いでいる人を見ると、何だか懐しくなって、声をかけてみたいように思うこともあります。

　こういう意味ですから、私の道楽はその後何年経っても進歩するはずはありません。根が研究的から出発しているのでありませんから、いわゆる「通」になるべきはずはありません。しかし我楽多玩具に対する私の趣味は、年を取るに随ってますます深くなるだろうと思っています。

青空文庫情報

底本：「岡本綺堂随筆集」岩波文庫、岩波書店
2007（平成19）年10月16日第1刷発行
2008（平成20）年5月23日第4刷発行
底本の親本：「新小説」
1919（大正8）年1月号
初出：「新小説」
1919（大正8）年1月号
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：川山隆
校正：noriko saito
2008年11月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

我楽多玩具

岡本綺堂

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/